

# 秋田創生COC+事業

超高齢・人口減少社会における  
若者の地元定着の促進と若者の育成

外部評価書  
(平成30年度実績)

令和元年10月31日  
秋田創生COC+協議会  
外部評価委員会

## 目 次

[ 1 ] . 外部評価委員会実施概要 . . . . .	1
[ 2 ] . 外部評価結果一覧表 . . . . .	2
[ 3 ] . 外部評価委員会の評価結果及び講評 . . . . .	3
[ 4 ] . 各外部評価委員の講評 . . . . .	5
[ 5 ] . 秋田創生COC+事業（平成30年度実績）に関する外部評価実施要領 . . . . .	9
[ 6 ] . 外部評価委員会資料 . . . . .	別添

## [ 1 ] . 外部評価委員会実施概要

1. 日時：令和元年10月31日（木）14：00～16：30

2. 場所：秋田大学百周年記念館 2階会議室

### 3. 出席者

#### (1) 外部評価委員

委員長 曾我 亨 弘前大学 副理事 人文社会科学部教授

委員 新出 康史 秋田市 産業振興部長

委員 佐藤 寿美 秋田県社会福祉協議会 事務局長

#### (2) COC+大学及び参加校関係者

##### 秋田大学

理事 志立 正知

教育推進主管 後藤 猛

医学系研究科教授 中村 順子

学長補佐 白木 智昭

地域コーディネーター 川村 宏

地方創生・研究推進課長 大山 弘

地方創生・研究推進課 総括主査 佐々木 繁男

地方創生・研究推進課 今野 悟

学生支援・就職課長 稲葉 倫子

総合学務課 大友 明久

##### 秋田県立大学

研究・地域貢献本部 主監 伊藤 邦夫

教務チーム チームリーダー 増山 裕

地域連携・研究推進センター コーディネーター 永田 徹

地域連携チーム シニアスタッフ 鈴木 孝豊

##### 秋田工業高等専門学校

創造システム工学科 嘱託教授 野坂 肇

### 4. 次第

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 外部評価委員の紹介

(4) 外部評価委員長の選出

(5) 外部評価実施要領について

(6) 事業概要・自己評価結果に関する説明及び質疑応答

(7) 外部評価結果とりまとめ

(8) 外部評価結果の発表と各委員からの講評

(9) 閉会

### 5. 配付資料

(1) 秋田創生COC+事業（平成30年度実績）に関する外部評価実施要領

(2) 外部評価委員会資料

① 秋田創生COC+事業自己評価書（平成30年度実績）

② 評価に関する資料

③ 別添参考資料

## [2]. 外部評価結果一覧表

	外部評価 委員会	委員 1	委員 2	委員 3	委員 4
分野1 第1の柱：6大学連携による「秋田おらほ学」 の展開	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ
分野2 第2の柱：3大学と地元企業群による就業 支援、若者定着の促進	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ
分野3 第3の柱：ふるさと秋田の魅力形成モデル づくり	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ
分野4 事業運営・情報発信等	Ⅲ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
全体評価	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ

### 評価基準

評価の記号	実施状況
V	計画を大幅に上回った実績である。
Ⅳ	計画を上回る実績である。
Ⅲ	概ね計画どおりの実績である。
Ⅱ	計画を下回る実績である。
I	計画を大きく下回る実績である。

## [3] . 外部評価委員会の評価結果及び講評

### 1 分野評価

#### (1) 6大学連携による「秋田おらほ学」の展開（評価 IV）

6大学が連携して「秋田おらほ学」の共通認証制度を前倒しで構築し、認定者を出すことができたこと、また、この取組を広く地域に情報発信できたことは高く評価できる。さらに、「あきた創生推進士」や「あきた地域学」等、各大学が地域産業に関する授業を充実させ、学生の地域理解を深める取組を推進していることも高く評価できる。今後は関係科目の履修者や修了者の追跡調査等によって効果を検証しつつ、プログラムの向上に努めて欲しい。

#### (2) 3大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進（評価 IV）

6大学と秋田県、県内経済団体と共に「秋田就職サポート会議」を開催し、大学の就職状況や、県外の企業の動向等を情報共有できている。また、「秋田ものづくりオープンカレッジ」については参加企業や学生も増えてきており、高く評価したい。

秋田大学の事業である「大学と県内企業による情報交換会」への秋田県立大学と秋田工業高等専門学校に参加や、秋田県立大学が実施する「ジョブシャドウイング」への秋田大学の参加など、各校個別の事業についても連携が進んでいることは高く評価できる。

こうした事業については、補助期間終了後も継続していくことが望ましい。

#### (3) ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり（評価 IV）

「聞き書きボランティア養成講座」は指導者のスキルアップに取り組み、実践活動を経て「聞き書き小冊子の贈呈」につながった。「コグニサイズ運動」は実践活動に加え、シンポジウム等を開催することができた。いずれも地域にとって重要な課題に取り組んでいると高く評価したい。

こうした活動を他の事業とも連動させることで、COC+事業の成果につなげて欲しい。例えば活動の成果を授業にフィードバックするなど、教育内容の充実につなげられないだろうか。授業の中からこうした事業に参加する学生が出てくることを期待したい。

#### (4) 事業運営・情報発信等（評価 III）

秋田創生COC+協議会を中心に事業の取組を進めている他、事業をチェックし改善するための場として機能している。また、「秋田創生COC+通信」やパンフレット

を通じて事業の取組を積極的に発信していることも評価できる。

## 2 全体評価 IV

地域で活躍する若者の育成と地元定着を目的とする秋田創生COC+事業は、人口減少が進む秋田県にとって必須の事業であり、COC+事業を推進する秋田大学、秋田県立大学、秋田工業高等専門学校には、地域から大きな期待が寄せられている。

COC+事業の事業期間は5年であり、平成30年度は4年目にあたる。これまでの事業の成果が期待される年である。秋田創生COC+事業は、事業目的を達成するために、3つの柱をたてて事業を推進した。

第1の柱である「秋田おらほ学」の展開では、計画よりも1年早く共通の認証制度を実施することができた。第2の柱である「就業支援」については、「秋田就職サポート会議」や「秋田ものづくりオープンカレッジ」などを通して企業と大学の連携を深めることができた。また、個別の大学が進める事業に他大学も参加するなど、大学間の連携を進めることができた。第3の柱である「ふるさと秋田魅力形成モデルづくり」は、聞き書きボランティアの養成を進めたり、コグニサイズ運動を広く展開したりすることができた。

これらの取組を進めたことで、事業協働地域就職率が3ポイント向上したほか、事業協働機関へのインターンシップ参加者数も高い水準を維持することができた。さらに、情報発信を積極的に進めており、大学以外の事業協働機関による事業への満足度も大きく向上した。具体的に、地域の企業がCOC+事業を後押しする動きも出てきている。これらのことから、本事業は計画を上回る実績をあげていると評価できる。

COC+事業は令和元年度で事業期間が終了するが、今後も継続が望まれる事業がある。今後は、必要な事業を継続するための方策を検討し、実現につなげて欲しい。

## [4]. 各外部評価委員の講評

### 1. 分野1（第1の柱：6大学連携による「秋田おらほ学」の展開）に関して

- ・秋田おらほ学の展開は、各教育機関の協働無くして出来ないことであり、これが拡充していることは喜ばしい。また、各大学において「あきた創生推進士」、「あきた地域学課程」、「COC+授業」など地域に関する授業を充実させており、事業期間終了後もこうした試みを是非続けてほしい。
- ・各大学において学生の地域理解を深める取組を熱心に行っていることに敬意を表する。
- ・県内出身者はもちろんだが、県外出身者において、いかに秋田に愛着を持って、秋田を好きになってもらい、秋田に留まってもらうかといったことも重要な視点と考える。
- ・地元の理解を深めながら地元産業への関心を深化させる中で、学生達にも「創業」に注目してもらいたい。そのためにも創業支援施設等を有効活用してもらいたい。
- ・各大学における取組の結果、地域志向科目の履修者や修了者が増加したことは評価できる。
- ・関係大学の連携による「秋田おらほ学認証」に関する制度の構築や「あきた創生推進士」等の称号授与の仕組みにより、学生の関心を高める取組が進んでいることも評価できる。
- ・「秋田おらほ学認証書」や「あきた創生推進士」等の称号を受けた学生に対する地域や企業等の評価、学生自身の評価等を丁寧にフォローし、地域志向科目の内容の充実等の今後の取組に活用していただくことを希望する。
- ・学生の地域志向科目の履修や地域における実習を通じて県内各地域の課題に気づき、解決策を模索することは貴重な経験になる。そうした実践を通じて問題発見能力を高めるとともに、多様な課題の解決に意欲的に取り組む学生が輩出され、県内に定着することを期待している。
- ・秋田おらほ学認証制度を当初計画より前倒しで実現させ、32名の認証者を出したことは評価できる。
- ・今後、認証制度を県内企業や自治体へ積極的にPRし、認証者のメリットが大きくなるよう期待したい。
- ・秋田大学、秋田県立大学では、地域志向科目の修了者の増加やプログラムの充実がみられ、両大学の熱意と学生の関心の高まりがうかがわれる。

### 2. 分野2（第2の柱：3大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進）に関して

- ・秋田就職サポート会議において、大学の就職状況や県外の企業の動向などを県内企業に伝えており、県内企業が採用の戦略を考えていく上で非常に重要な試みである。
- ・今後、秋田就職サポート会議に参加した企業団体等が、どのように会員企業に情報を伝えているのかまです、フォローを出来ればよいのではないかと考える。
- ・秋田ものづくりオープンカレッジについては、参加企業や学生も増えてきており、高く評価したい。
- ・各校の取組においても様々な工夫がなされており、特に秋田大学の「大学と県内企業による情報交換会」は、秋田就職サポート会議の各企業版のようなものであり、各企業の採用力を高める上で、重要であり、補助期間終了後も主催が大学かどうかは別にして、継続していくことが望ましい。
- ・県立大学が随分頑張っているジョブシャドウイングについては、その後のインターンシップや就職へ繋げる意識があり、エントリーポイントとしての重要性をよく理解でき、このような事業の組み合わせにより、大きな効果を生み出して欲しい。
- ・ジョブシャドウイングのコーディネーターについては実施企業開拓等で頑張っているが、事業終了後も

企業等との連携を継続して欲しい。

- ・各大学での県内企業へのインターンシップ参加者数が順調に推移しており、効果が出ているものと評価し、今後の進展に期待する。
- ・秋田大学の事業である「大学と県内企業による情報交換会」への県立大学と秋田高専の参加や、県立大学が実施する「ジョブシャドウイング」への秋田大学の参加といった、大学間の連携が進んでいることについて好ましいと感じた。
- ・今後の要望としては、特定の学部に限らず、IT系に強い学生の育成に注力していただければ、進出が進んでいるIT関連企業とのマッチングがより進展するものと考えられる。
- ・「秋田就職サポート会議」、「大学と県内企業による情報交換会」などを通じて大学と企業、産業界との間で情報が共有され、学生の県内企業への就職支援に向けた共通認識を形成していることは評価できる。
- ・「大学と県内企業による情報交換会」が3大学の連携事業に発展したことは、参加企業にとっては各校が養成している人材に関する情報を一度の機会に収集できる取組であると理解しており、この点も評価できるものとする。
- ・様々な機会を通じて企業や産業界が求める人材像を把握するとともに、そうした情報を学生の教育に活用することにより県内就職率の上昇傾向を維持できるよう、多方面からの取組を継続することや新たな取組を検討することを期待する。
- ・県内企業等に関する情報を学生が積極的に収集することができる環境整備や、そうした環境を学生が有効に活用するための指導の強化のほか、行政や商工団体等と連携して関係大学の学生の採用に関する県内企業への働きかけを強化することをお願いしたい。
- ・「秋田ものづくりオープンカレッジ」では、参加企業、来場者が前年より大幅に増加し、講演会もほぼ前年並みの聴衆を集め、県内就職率上昇のカギの一つである「地元企業を知る」ことに大きく寄与したものである。
- ・「大学と県内企業による情報交換会」が秋田大学単独から秋田県立大学、秋田工業高等専門学校との3大学連携となったほか、ジョブシャドウイングが秋田県立大学単独であったものが秋田大学も実施する等、連携強化が一段と進んでいる。
- ・地元企業を知ってもらうことは、県内就職の第一歩とも言えるものであり、インターンシップの充実とあわせ、今後とも取組を強化していただきたい。

### 3. 分野3（第3の柱：ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり）に関して

- ・この分野の事業は、地域にとって非常に重要な課題への取組であるものと評価する。合わせて、地域での活動を大学の授業にフィードバックするなど、教育内容の充実にも繋げていき、出来ればその授業を受けた学生の中から、こうした事業への参加を希望するものが現れることを期待する。
- ・大学単独で実施するには範囲の広いテーマではあるが、コグニサイズ等は地域と非常に密着した形で活動がなされており評価できる。
- ・大学と地域との交流は大学自体の魅力を高める上でも大事なことであり、継続して取り組んで欲しい。
- ・提案として秋田の「食」を活かした魅力づくりをしてみてもどうか。
- ・コグニサイズ運動の実践を通じ健康寿命の延伸に向けた取組を進めることは、個人のQOLの維持、地域社会の活力の維持の両面から重要であり、積極的に展開していることは評価できる。



- ・地域において自主的な取組が続いている例が出てきていることも評価できるものとする。
- ・コグニサイズ運動について、地域で指導者として活動する人材の養成や全県域での展開につながる取組の実施について検討することを期待する。
- ・聞き書きの対象となった高齢者にどのような効果が見られるか、聞き書きを行うボランティアは地域の魅力をどのように捉えたのか等について把握した上で、若者の地元定着にどのように結び付けていくのか等、今後の地域における展開のあり方を検討していただきたい。
- ・聞き書きについては、養成講座の開催や指導者のスキルアップに取組、実践活動を経て「聞き書き小冊子の贈呈」につなげることにより、世代間のギャップを埋め、高齢者の生きがいを増やす意味で価値のある活動であり、今後の活動の広がりを期待したい。
- ・「コグニサイズ運動」は、潟上市での教室開催、中間報告会の開催、自治体等への講師派遣に加え、指導者の育成による事業推進体制の強化がなされるなど非常に積極的な取組が行われ、本運動の今後の発展が十分に期待できる状況にある。
- ・合宿と教育実習の誘致活動は、相応の成果が得られている。

#### 4. 分野4（事業運営・情報発信等）に関して

- ・秋田創生COC+協議会が事業をチェックし、改善するための場になっていることが確認できた。また、事業協働機関との協議においてバスツアーを企画するなど、企業側が積極的に関与する動きが地域に広がりつつあることを知ることができた。
- ・今後の成果を地域に発信し、応援団を作っていってほしい。また、こうした地域の側の申し出を事業期間終了後も継続できるような仕組み作りを考えていただきたい。
- ・秋田創生COC+協議会の開催により、本事業の取組の充実・強化を図っていることや、様々な機会にCOC+事業の全体や個々の取組内容について情報発信に努めていることは評価できる。
- ・外部への情報発信を通じ本事業への理解、大学の活動に関する理解を得ることは重要であり、学生、企業や産業界、地方自治体、学生の保護者それぞれが求めている情報がどのようなものかといった点にも留意しながら、今後も、情報発信に努めていただきたいと考える。
- ・「COC+パンフレット」等の作成により、広く県民にCOC+事業の周知を図ることができた。

#### 5. 全体評価

- ・秋田県の人口減少が進む中、人口減少を抑えながら、いかに都市の縮小均衡を図るかが、今後の行政運営を進める上で重要であるとする。
- ・若者の地元定着は非常に重要で、地域にとって喫緊の課題であり、この秋田創生COC+事業は有意義なものであると受け止めている。
- ・この事業におけるこれまでの取組が一定の成果を上げていることを前向きに評価するとともに、今後も地域の大学等が連携を深めながら、関連事業を推進していただきたい。
- ・行政としても秋田創生COC+事業に連動して、若者の地域への定着について、効果のある活動をしていきたいと考えている。
- ・定量的目標6項目のなかで、県内就職率を除く5項目については目標達成かほぼ達成となった。
- ・県内就職率は大きく未達成となっているが「首都圏企業の一人勝ち」と言われるほど状況が一段と厳し

いなか、非常に善戦したものと判断する。

- 各分野において計画に沿った事業が実施されているほか、一部においては計画以上の事業が実施されており、全体として「計画を上回る実績である。」と認められる。
- 効果的な事業の実施に向け、関係大学や関係機関と連携した取組をさらに充実、発展させていただくことを期待する。
- 事業の継続により、関係大学と県内の企業や自治体等が連携してそれぞれの魅力を高めるとともに、そうした魅力を学生が知る機会を増やし、各大学卒業者の県内就職、県内定着が促進され、本県の課題である社会減対策に大きな役割を果たすことを期待する。

## [5] . 秋田創生COC+事業（平成30年度実績）に関する外部評価実施要領

### 1 目的

外部評価は、秋田創生COC+事業の自主的な見直し、改善を促し、もって当該事業の質の向上、事業運営の効率化及び透明性の確保に資することを目的とする。

### 2 評価の体制

(1) 外部評価委員会は、外部評価委員会に関する細則第2条の規定に基づき次の委員により構成する。

国立大学法人弘前大学 副理事・人文社会科学部教授 曾我 亨

秋田市 産業振興部長 新出 康史

一般財団法人秋田経済研究所 専務理事・所長 相原 学

社会福祉法人秋田県社会福祉協議会 事務局長 佐藤 寿美

(2) 外部評価委員会に関する細則第4条の規定に基づき、外部評価委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

### 3 外部評価の実施方法

(1) 各外部評価委員は、自己評価委員会が作成した「自己評価書」、及び外部評価委員会におけるCOC+大学（秋田大学）とCOC+参加校（秋田県立大学・秋田工業高等専門学校）の説明及び質疑応答に基づき、別添様式の外部評価シートにより、4つの分野及び事業全体について、次の評価基準により評価を実施する。

ア 4つの分野

第1分野：「第1の柱：6大学による「秋田おらほ学」の展開」に関すること

第2分野：「第2の柱：3大学と地元企業群による就職支援」に関すること

第3分野：「第3の柱：ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり」に関すること

第4分野：事業運営、情報発信に関すること

イ 評価基準

評価の記号		実施状況
分野	全体	
V	V	計画を大幅に上回った実績である。
IV	IV	計画を上回る実績である。
III	III	概ね計画どおりの実績である。
II	II	計画を下回る実績である。
I	I	計画を大きく下回る実績である。

(2) 外部評価委員会は、各外部評価委員の評価結果に基づき協議し、外部評価委員会としての評価結果を決定する。

(3) 外部評価委員会は、評価結果を取りまとめた「外部評価書」を作成し、秋田創生COC+協議会長に報告する。

#### 4 外部評価委員会

(1) 日 時 令和元年10月31日(木) 14:00～16:30

(2) 場 所 秋田大学百周年記念館 2階会議室

(3) 次 第

- ① 開会
- ② あいさつ
- ③ 外部評価委員の紹介
- ④ 外部評価委員長の選出
- ⑤ 外部評価実施要領について
- ⑥ 事業概要・自己評価結果に関する説明及び質疑応答
  - ア 全体事業概要について
  - イ 平成30年度事業の進捗状況の概要について
  - ウ 数値目標の進捗状況について
  - エ 分野1及びその自己評価について
  - オ 分野2及びその自己評価について
  - カ 分野3及びその自己評価について
  - キ 分野4及びその自己評価について
  - ク 全体評価について
- ⑦ 外部評価結果とりまとめ
- ⑧ 外部評価結果の発表と各委員からの講評
- ⑨ 閉会

(4) 出席者(予定)

- ① 外部評価委員
  - 国立大学法人弘前大学 副理事・人文社会科学部教授 曾我 亨
  - 秋田市 産業振興部長 新出 康史
  - 一般財団法人秋田経済研究所 専務理事・所長 相原 学
  - 社会福祉法人秋田県社会福祉協議会 事務局長 佐藤 寿美
- ② C O C + 大学及び参加大学関係者
  - ア 自己評価委員会委員
    - 秋田大学理事 志立 正知
    - 秋田大学 教育推進主管 後藤 猛
    - 秋田大学 地方創生センター地域協働・防災部門長 白木 智昭
    - 秋田大学 医学系研究科教授 中村 順子
    - 秋田県立大学 生物資源学部長 金田 吉弘
    - 秋田県立大学 研究・地域貢献本部 主監 伊藤 邦夫
    - 秋田工業高等専門学校 創造システム工学科 教授 丸山 耕一
    - 秋田工業高等専門学校 創造システム工学科 嘱託教授 野坂 肇
  - イ その他各校事業担当者・事務担当者
    - 秋田大学 地域コーディネーター 川村 宏
    - 秋田大学 地方創生・研究推進課職員
    - 秋田大学 総合学務課職員
    - 秋田大学 学生支援・就職課職員
    - 秋田県立大学職員
    - 秋田工業高等専門学校職員